夢童（ゆめわらし）

菅波　茂

# 石井十次国際貢献プログラム

台風が通過した直後の16日に行われた、宮崎県サミット記念「NPO国際ネットワークと地域社会の国際化」のシンポジウムに参加した。参加者の5割弱が高校生だった。

宮崎と岡山を結ぶ人物がいる。石井十次である。彼は宮崎県に生まれ、岡山医科大で学んだ。当時、東北地方では第一次世界大戦後の不況に、冷害による不作が追い打ちをかけ、窮乏した農家は娘を都会の遊郭に売った。石井は「娘を売るなら、岡山に送れ」と手紙を書いた。彼は1000人を超える孤児の面倒をみた。救済活動のために大学は卒業できなかった。

晩年は宮崎に帰って活動を続けた。今や両県で伝説の人である。倉敷の大原孫三郎を始め、多くの岡山県人が彼を支援した。宮崎では生まれ故郷を中心に顕彰会が結成され、活動を続けている。県内でも、宮崎県に九州保健福祉大を設立した高梁学園を中心に顕彰が始まった。

発展途上国ではエイズで若い世代が死亡し、エイズ孤児が増加している。また経済格差のために都会にストリートチルドレンが見られるようになった。先進国では高齢化が深刻な問題であるが、発展途上国では孤児の増加が顕著化している。

日本では高齢化に加え少子化が問題になっている。情報通信技術の発達で、世界は狭くなってきている。知恵は経験により、知識に優先順序をつけたものである。次の世代を担う若者が、いかに経験を蓄積し知恵を身に付けるかということは、大人の課題でもある。

そこで、高校生国際理解奨学金制度（スタディーツアー）を提言したい。自我に目覚め、人生の岐路を迎えた高校生は大事な時期である。10年後の県民力に、国際理解の機会を与えるのである。

高校生は時間はあっても金はない。5万円無利息、10年間の返還制度にする。海外の視察・研修の場は海外進出企業やNGOなどの連携で準備する。「石井十次国際貢献プログラム」と名付け、宮崎県と岡山県が連携して創設してはいかがであろうか。

（アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者）